

(2) ガスクロマトグラフィー (GC)

i) 前処理

高速液体クロマトグラフィーの項の前処理と同様の方法で行う。

ii) GC の条件

装 置	: ガスクロマトグラフ
検出器	: FID (水素炎イオン化検出器)
カラム	: 3% OV-17/Gas Chrom Q (AW-DMCS, 80-100 mesh), 1 m x 3 mm i.d.
温 度	: カラム 140℃ ; 注入部・検出器 260℃
キャリアガス	: 窒素 40 ml/min 測定時間 : 約 5 min

【注 解】

- 1) 試験液 1-2 μ l をガスクロマトグラフに注入し、得られたガスクロマトグラムを標準品と比較して同定する。
- 2) 臓器 (肝, 脳)の分析については、寺田らおよび小嶋らの報告を参照。その他に GC/MS による屋敷ら、高安らの報告、および GC による Okada ら、Kumazawa らの報告もある。
- 3) ブロムワレリル尿素は熱安定性に乏しいので、分析には注意が必要である。
- 4) 本法におけるブロムワレリル尿素の保持時間は 1.2 分である。

【文 献】

1. 寺田 賢 他. 日法医誌 1981 ; 35 : 456-461.
2. 小嶋 亨 他. 日法医誌 1976 ; 30 : 365-367.
3. 屋敷幹雄 他. 日法医誌 1987 ; 41 : 452-456.
4. 高安達典 他. 日法医誌 1993 ; 47 : 63-71.
5. Okada H, Ohashi K. Jpn J Forensic Toxicol 1998 ; 16 : 25-33.
6. Kumazawa T et al. J Anal Toxicol 1992 ; 16 : 163-165.